

熊本県立劇場 指定管理者 平成30年度 管理運営評価票

所管部局：企画振興部地域・文化振興局文化企画・世界遺産推進課

I 施設の管理概要

指定管理者名	公益財団法人熊本県立劇場
指定期間	平成24年4月1日～平成31年3月31日
施設概要	文化施設 1 目的：県民の文化の振興 2 施設概要 ・コンサートホール 収容定員 1,810 人 ・演劇ホール 収容定員 1,172 人 ・大会議室 収容人員 162 人（机・椅子使用時）、380 人（椅子のみ使用時） ・その他 和室、リハーサル室、第1～3練習室 駐車場（普通車 490 台、バス 5 台）、駐輪場（約150台）
指定管理料	410,867,000円（平成30年度分）

II 管理運営の評価

1 評価の総括

【管理運営業務の水準】

管理業務の水準の指標	目標値	実績値	差	備考
県劇入場者数	339,000 人	385,302 人	+46,302 人	対前年度+27,415 人
文化事業入場者・参加者数	41,400 人	48,047 人	+6,647 人	対前年度+7,384 人
コンサートホール利用率	73.0%	76.2%	3.2ポイント	対前年度4.9ポイント
演劇ホール利用率	81.0%	84.4%	3.4ポイント	対前年度8.0ポイント

【適正な事務執行の状況】

事務の内容	評価
施設の維持管理、定期点検等	適正
使用料の収納	適正
意見・苦情等への対応	適正

【県立劇場運営方針に定めるミッションの達成度】

【評価の基準】

- A：持続・更なる向上が期待される状態
- B：ステップアップが望まれる状態
- C：見直しが必要な状態
- D：抜本的な見直しが必要な状態

運営方針	評価項目	評価
質の高い事業の実施	①質の高い実演芸術に触れる機会の提供	A
	②特色ある自主企画事業の実施	A
普及啓発	③児童、生徒、学生等に対する質の高い実演芸術に触れる機会の提供	A
	④実演芸術の理解を一層深めるための付随事業の実施	A
	⑤アウトリーチ事業の実施	A
	⑥国内外で活躍する熊本県出身芸術家等との連携	A
	⑦日常的に人々が集い自由に文化芸術に触れることができるための工夫	A
専門的人材の確保及び資質向上	⑧専門的能力を有するスタッフの確保	B
	⑨県立劇場スタッフの専門的能力向上のための研修等の機会の付与	A
関係機関との連携強化	⑩県内文化ホール等（県外文化ホール、海外の文化ホール、実演芸術団体等を含む）との共同公演、巡回公演、情報交換等の実施	A
	⑪県内文化ホールへの派遣指導、受入研修、集合研修等の実施	A
経営の安定化	⑫協賛企業の確保等、多様な財源の確保	B
	⑬公演実施者及び鑑賞者の拡大に向けた取組みの実施	A
安全管理	⑭災害時等における事業継続計画の策定、避難訓練等の実施	A
	⑮災害等の非常時における避難者への対応	B
適切な評価基準の設置と事業評価の実施等	⑯自己評価の実施	A
	⑰県の事業評価結果の事業計画への反映	A

2 事業内容

【文化事業の実績】

事業名		開催日	入場者数	内容
(1)創造拠点事業			30,356	
県立劇場自ら取り組む舞台制作や文化団体の活動を支援する事業	行くぜ！劇場探検隊 2018(全2回)	H30/8/23(木)	62	小学生とその保護者を対象に演劇ホールを使ってバックステージツアーを実施。
	第60回熊本県芸術文化祭オープニングステージ「邦楽」			
	流れゆく水、炎の躍動	H30/9/2(日)	953	芸術監督に尺八演奏家の藤原道山を迎え、熊本の水と火をテーマにプロの演奏家と地元の演奏家及び小中高生らによる演奏会を実施。
	《関連企画》 教えて！邦楽って何？	H30/6/12(火)	179	藤原道山と葛西聖司をナビゲーターに迎え邦楽講座を実施。
	《関連企画》 芸文祭オープニングステージ 夏合宿	H30/8/15(水) ～8/17(金)	200	オープニングステージに向けた練習。藤原道山ほか、ゲストを招き、地元の演奏家と3日間10コマの集中練習を実施。
	モーツァルト歌劇「ドン・ジョヴァンニ」全幕			
	モーツァルト歌劇「ドン・ジョヴァンニ」全幕	H31/2/3(日)	727	東京芸術劇場とオーバード・ホール(富山)と共同で新演出オペラを制作・上演。
	《関連企画》 小林沙羅アウトリーチ(3公演)	H30/10/13(土) ～10/14(日)	133	小林沙羅(ソプラノ)によるミニコンサートを県内3か所で実施。
	《関連企画》 コーラスリハーサル(全3回)	H30/10/28(日) H30/11/17(土) ～11/18(日)	57	地元コーラス隊への合唱指導。
	東京藝術大学音楽学部「早期教育プロジェクト」2018 in 熊本			
	弦楽器部門、管・打楽器部門 特別公開レッスン	H31/3/16(土) ～3/17(日)	167	東京藝術大学と県立劇場とが協働して取り組む逸材発掘プロジェクト。東京藝術大学の講師・教授陣が来熊し、直接指導。
	熊本復興特別演奏会	H31/3/17(日)	1,009	受講生と講師のほか、東京藝大ウィンドオーケストラと玉名女子高等学校吹奏楽部による演奏会。
	県劇ゼミ			
シアターアクセシビリティ	H30/6/19(火)	36	公立文化ホールにおける障がい者対応に関する研修。	

	フロントスタッフ講座	H31/2/5(火)	32	フロントスタッフの役割について座学と現場での実践を実施。
	目からウロコの著作権講座	H31/2/24(日)	120	著作権に詳しい骨董通り法律事務所(東京都)の福井健策弁護士を招いて実施。
	社会包摂事業ワークショップ「老いと演劇」	H30/5/20(日)	162	老いとボケと死をテーマに、演劇作品の上演・公演を実施。
オハイエくまもと協力事業				
	音楽ワークショップ	H30/11/11(日) H31/2/24(日)	122	「とっておきの音楽祭」本番に向け音楽家の片岡祐介を招き、演奏指導を実施。
	第10回オハイエくまもと「とっておきの音楽祭」	H31/3/18(日)	800	熊本市現代美術館での実施における舞台進行協力。
	文部科学省「文化芸術によるこどもの育成事業」受託事業	H30/5/20(日)	649	文部科学省の受託事業として県内6小学校で実施。
	文化活動支援事業	通年	5,230	6事業に会場費を助成。
民間共催事業				
	第2回熊本地震復興祈念演奏会 (主催:くまもと音楽復興支援100人委員会)	H30/4/16(月)	1,800	ベートーヴェン交響曲第9番ほか演奏。
	第57回熊本県新人演奏会 (主催:熊本県文化協会)	H30/11/4(日)	518	オーディションで選ばれた県出身または在住の演奏家12人が演奏。
	ベートーヴェン「第九」 (主催:熊本県民第九の会ほか)	H30/12/23(日)	1,317	指揮:大友直人 ソリスト:佐々木典子、大友一彰
	世界との出会い in 熊本 主催:スタジオアーキタンツ	H31/2/9(土) ~2/10(日)	107	舞踏家のレズリー・ワイズナーによるバレエワークショップを開催した。
アートキャラバンくまもと				
	アートキャラバンくまもと	通年	369	熊本地震後、平成28年度にスタートした継続事業。ミニコンサートなど、県内各地で実施した。
	吉永小百合×村治佳織×姜尚中 トーク&コンサート	H30/4/6(金)	694	詩の朗読、クラシックギターのミニコンサート、トークショーを実施。
	くまモン& キネコ映画祭 (全2回)	H30/4/15(日)	2,700	ファミリー向けの映画を、合計11本上映。
	ましきっず向けワークショップ	通年	920	熊本地震で被災した子どもたちの心の復興を目指し、毎月4回のワークショップを実施。
	ましきっず第2回公演「バルーンストーリー」 (全3回)	H31/3/9(土) ~3/10(日)	230	1年間の集大成としての公演。

	サントリー みんなのまちのコンサート（全8公演）	通年	2,661	サントリーホールディングスと九州交響楽団と協働で、県内3町において復興支援のミニコンサートを実施。
地域の公立ホールを支援する事業	日露交歓コンサート			
	日露交歓コンサート	H30/9/23(日)	335	モスクワ音楽院（ロシア）の卒業生、研修生ら7名による本格的なクラシックコンサート。
	《関連企画》 地域交流プログラム	H30/9/22(土)	200	地元の子どもたちによる歓迎公演。
	文化プログラム推進事業			
	東京キャラバン in 秋田 ワークショップ	H30/12/8(土) ~12/9(日)	1,270	「東京キャラバン in 秋田」(東京都等主催)に山鹿灯籠踊り保存会を派遣。熊本の伝統芸能を国内外へ発信。野田秀樹演出のもと、なまはげ保存会等と共演。
	女子ハンドボールアジア選手権 フェアウェルパーティ 「牛深ハイヤ」	H30/12/9(日)	200	女子ハンドボールアジア選手権終了後のパーティー会場で、牛深ハイヤ保存会による牛深ハイヤを披露。日本、韓国、中国、カザフスタンの各選手と関係者など多くの方が熊本の民俗芸能を鑑賞。
	シネマ歌舞伎「スーパー歌舞伎Ⅱ ワンピース」(全2回)	H30/12/10(月)	226	アニメ・歌舞伎・映画・音楽の融合を切り口に、シネマ歌舞伎を上映。尺八演奏家の藤原道山によるミニライブも行った。
	県庁ロビーコンサート 「菊池恵楓園心の朗読会」	H31/2/13(水)	70	菊池恵楓園入所者らが書いた手記や詩、短歌の朗読会を実施。
	東京キャラバン in 秋田	H31/2/16(土) ~2/17(日)	1,619	秋田の伝統芸能(男鹿なまはげ、秋田市竿燈会、二代目浅野梅若)に熊本の山鹿灯籠保存会が加わり公演を実施。
	beyond2020 普及事業	H31/2~3月	—	beyond2020 プログラム熊本県版ロゴマークの周知と活用推進のため、印刷物やグッズを作成。
	ネットワーク事業	通年	2,498	「林家たい平独演会」、「熊本交響楽団」「絵本のじかんだよ!」など6市町で7公演実施。
公立文化ホール支援事業	通年	—	熊本市子ども文化会館での研修会のほか、九州地域アートマネジメント研修会、九州類似ホール連絡会等の開催及び参加。	

伝統文化の継承と発展を支援する事業	県劇盆踊り	H30/8/14 (火)	1,200	民謡演奏家を招き、生演奏で牛深ハイヤ節、炭坑節、おてもやんほか、東京五輪の気運醸成のため「東京五輪音頭 2020」を踊った。その他、益城町子ども劇団が、新曲「ましきまちのうた」を初披露。
	現代能楽集「竹取」			
	現代能楽集「竹取」	H30/11/2 (金)	707	能楽や舞踏、打楽器奏者など様々なジャンルの出演者による新作舞台を上演。
	《関連企画》 小野寺修二のマイム体験教室	H30/7/14 (土)	24	パントマイムの小野寺修二によるワークショップ。10歳から76歳までの幅広い年齢層が参加。
伝統芸能発信事業	通年	53	県内における伝統文化・伝承芸能活動の調査事業を実施。	
(2) 普及拠点事業			7,538	
舞台芸術を鑑賞する機会を県民に提供する事業	トーンキュンストラ管弦楽団	H30/5/13 (日)	1,745	オーストリアのウィーンを拠点に活動し110年の歴史を持つトーンキュンストラ管弦楽団による演奏会。指揮：佐渡裕。レナード・バーンスタインの作品より2曲演奏。
	不思議の国のアリス			
	不思議の国のアリス(全3回)	H30/9/21 (金) ~9/22 (土)	509	ダンサー・振付家の森山開次演出、KAAT 神奈川芸術劇場制作のキッズ・プログラム。
	《関連企画》 森山開次のダンスワークショップ	H30/6/17 (日)	19	小学1~3年生の子どもたちを対象としたワークショップ。
	クリスチャン・ツィメルマン ピアノリサイタル	H31/3/14 (木)	1,676	ブラームス/ピアノ・ソナタ第2番、ショパン/4つのスケルツォなどを演奏。
	民間共催事業			
	NHK 交響楽団	H30/7/12 (木)	1,509	4年に一度のN響九州ツアーの一環。ロシアの巨匠・フェドセーエフの指揮によるオール・ロシア・プログラム。
	アリス=紗良・オット ピアノリサイタル	H30/9/20 (木)	1,202	ドビュッシー/ベルガマスク組曲やラヴェル/夜のガスパールほか演奏。
演奏家派遣アウトリーチ事業	通年	878	御船町、あさぎり町、益城町の小学校でアウトリーチを実施。	
ぴっころシート事業	通年	—	2公演に14の児童養護施設の子どもたちと里親4家族の計202人を招待。	

(3) 市民会館事業		10,153	
トークセッション「熊本の文化力」	H30/4/7 (土)	670	平成 30 年度から熊本県立劇場と熊本市民会館が連携して熊本市民会館の文化事業を実施。その連携強化を記念し姜尚中熊本県立劇場館長、大西一史熊本市長とのトークセッションを実施。
アラジンと魔法のランプ	H30/8/18 (土)	1,075	日生劇場が制作する夏休み親子向けの物語付きクラシックコンサート。
KUMAMOTO JAZZ 2018			
KUMAMOTO JAZZ 2018	H30/12/15 (土)	-	【公演中止】 出演者の山下洋輔の怪我によりをしたことで急遽中止が決定。チケットを購入したお客様には電話やTVCM 等で周知を図り、本番日は会場で中止と払戻しの案内を行った。
《関連企画》 ワークショップ & ミニコンサート	H30/11/10 (土)	144	トロンボーン奏者の松本治によるワークショップ。
劇団四季「魔法を捨てたマジョリン」(全 5 回)	H31/1/23 (水) ~1/25 (金)	5,901	劇団四季によるオリジナルミュージカルを上演。(一財) 舞台芸術センターと劇団四季の社会貢献活動「こころの劇場」として熊本市内の小学 6 年生を招待。
エリサと白鳥の王子たち(全 2 回)	H31/1/31 (木)	2,334	アンデルセン童話「野の白鳥」を原作とし、コンテンポラリーと人形劇を組み合わせた公演。
芸術文化による子どもの育成事業	H31/1/17 (木)	29	3 年生を対象としたワークショップを実施。本事業は学校が文化庁に直接申請する事業であるため、県立劇場は視察と次年度以降の展望の聞き取りを行った。
計		48,047	

【運営方針に定めるミッションの達成度】

(1) 質の高い事業の実施

■評価項目①：質の高い実演芸術に触れる機会の提供

評価	理由
A	オーケストラ、能楽、舞踏など、様々な分野で一流のアーティスト等による自主事業を実施しており、幅広い層の県民に質の高い実演芸術に触れる機会を数多く提供している。人気のアーティストの公演のチケットは完売又はほぼ完売となる等、興味関心が高い事業を実施している。 また、公演の企画・立案に当たっては、有識者等で構成する「文化事業評価委員会」に意見聴取を行うなど、広く県民ニーズを反映した内容となるよう努めている。

■評価項目②：特色ある自主企画事業の実施

評価	理由
A	H30 年度の芸文祭オープニングステージでは、「邦楽」というテーマに挑戦。熊本の水と火をテーマにプロの演奏家と地元の演奏家及び地元の小中高生が共演するなど、趣向を凝らした企画性・創造性の高い公演を制作した。 また、他館と共同での新演出「ドン・ジョバンニ」を制作・上演するなど、独自性・企画性の高いものを積極的に実施し高い評価を得ている。 その他、夏休みの親子向けのバックステージツアーなど工夫を凝らした事業を実施している。

(2) 普及啓発

■評価項目③：児童、生徒、学生等に対する質の高い実演芸術に触れる機会の提供

評価	理由
A	県立劇場主催の文化事業においては、ほとんどの公演で 25 歳以下の若年層向け割引が設定されており、7 公演で託児サービスが実施されている。 また、親子向けの鑑賞プログラムや、子ども向けのワークショップを複数実施するとともに、学校向けの広報、児童養護施設の子どもの招待等にも積極的に取り組むなど、児童等が実演芸術に触れる機会の創出に努力している。

■評価項目④：実演芸術の理解を一層深めるための付随事業の実施

評価	理由
A	芸文祭オープニングステージに付随した講座、ステージに向けた集中練習など、公演について鑑賞者・出演者の理解を深めるための取組みを積極的に実施している。 各事業の、関連企画においては、小学生低学年が楽しんで参加できるような参加型ダンスワークショップや吹奏楽部の学生が講義を受けるワークショップなど、各方面で実演芸術の理解を深めるための付随事業の実施に努めている。

■評価項目⑤：アウトリーチ事業の実施

評価	理由
A	小学校へのアウトリーチのほか、仮設住宅などでのワークショップの開催等、対象者が異なる複数のアウトリーチ事業を実施している。 なお、アウトリーチの実施に当たっては、受け入れ先、関係機関及びアーティストと協働で年間のプログラムを企画・立案し、計画的かつ効果的な事業の実施に努めている。

■評価項目⑥：国内外で活躍する熊本県出身芸術家等との連携

評価	理由
A	<p>芸文祭オープニングステージへの県出身アーティストの招へいや、東京藝術大学音楽学部「早期教育プロジェクト」で県出身准教授を招いて公開レッスンを行ったほか、被災地支援事業、アウトリーチ事業、ネットワーク事業等においても県内または県出身のアーティストと積極的に連携して取り組んでいる。</p> <p>また、「第2回熊本地震復興記念コンサート」、「第57回熊本県新人演奏会」「熊本県民第九の会」の公演など、県出身芸術家に関わりが深い取組みを積極的に支援している。</p>

■評価項目⑦：日常的に人々が集い自由に文化芸術に触れることができるための工夫

評価	理由
A	<p>劇場が開かれた場（広場）であり、地域住民が気軽に立ち寄る集いの場になるようにと「県劇盆踊り」を開催するなど、より地域に開かれた、人々が集う劇場になるための工夫を行っている。</p> <p>また、劇場から離れた場所に在る方々にもアートを届けるため「アートキャラバン事業」や「アウトリーチ事業」等にも取組み、劇場がより県民に身近なものとなるよう努めている。</p> <p>その他、社会包摂事業ワークショップとして、熊本保健科学大学地域包括連携医療教育研究センターと協働で実施するなど、公共団体や教育機関、民間企業等との連携を強化して事業にも取り組んでいる。</p> <p>今後は、劇場来館者の利便性、快適性を一層高めるための取組みを期待する。</p>

(3) 専門的人材の確保及び資質向上

■評価項目⑧：専門的能力を有するスタッフの確保

評価	理由
B	<p>舞台芸術公演に関する様々な専門的知識を有する人材を育成することを目的に、「県劇ゼミ」を開催。県劇職員のほか、県内公立文化ホール職員にも参加を呼びかけ劇場関係職員のスキルアップに繋げた。</p> <p>今後とも、舞台づくりや劇場運営など様々な業務でも同様の取組みを行い、実演芸術に携わる人材の育成、確保に長期的な視点で取組んでいただくことを期待する。</p>

■評価項目⑨：県立劇場スタッフの専門的能力向上のための研修等の機会の付与

評価	理由
A	<p>年間を通して、組織内での研修、(公社)全国公立文化施設協会や熊本県公立文化施設協議会での研修会への参加等を通じて管理運営業務に必要な知識と技術の習得、職員の資質向上に努めている。</p> <p>研修内容は、業務管理、自主文化事業、技術研修をはじめ、著作権、ハラスメント等リスク防止研修、障がい者等対応に関する研修、大規模地震やテロ対策等多岐にわたっている。</p> <p>今後とも、ニーズを捉え組織内での定期的な研修の実施や、外部への研修機会の付与など、更なる能力向上のための取組みを期待する。</p>

(4) 関係機関との連携強化

- 評価項目⑩：県内文化ホール等（県外文化ホール、海外の文化ホール、実演芸術団体等を含む）との共同公演、巡回公演、情報交換等の実施

評価	理由
A	県外のホールと協働で公演を制作・上演。アートキャラバン事業、ネットワーク事業、アウトリーチ事業、職員研修等において、県内文化ホール等と協働で事業を実施し、併せて情報やノウハウの提供を行っている。 また、ホームページや館内でのポスター・チラシ等掲示により、県内文化ホールの公演情報の提供を行っている。

- 評価項目⑪：県内文化ホールへの派遣指導、受入研修、集合研修等の実施

評価	理由
A	県立劇場からの派遣指導、県立劇場での受入研修を行っているほか、熊本県公立文化施設協議会会長館として、集合研修の企画・運営にも取り組んでいる。 今後は、本県の文化拠点としての役割を果たすため、研修ニーズを十分把握のうえ、計画的かつ長期的視点での取組みを期待する。

3 経営の安定化

【施設の利用状況】

施設名		年度計	前年度計	前年度比
	開館日数	335	335	0日
コンサートホール	利用可能日数	269	254	15
	利用日数	205	181	24
	利用率	76.2%	71.3%	4.9ポイント
	入場者数	205,548	195,304	10,244
演劇ホール	利用可能日数	147	242	△95
	利用日数	124	185	△61
	利用率	84.4%	76.4%	8.0ポイント
	入場者数	77,277	125,888	△48,611
大会議室	利用可能日数	310	325	△15
	利用日数	208	90	118
	利用率	67.1%	27.7%	39.4ポイント
	入場者数	36,925	11,670	25,255
和室	利用可能日数	320	329	△9
	利用日数	111	71	40
	利用率	34.7%	21.6%	13.1ポイント
	入場者数	2,988	946	2,042
音楽リハーサル室	利用可能日数	306	327	△21
	利用日数	230	228	2
	利用率	75.2%	69.7%	5.5ポイント
	入場者数	15,462	7,555	7,907
演劇リハーサル室	利用可能日数	308	329	△21
	利用日数	186	173	13
	利用率	60.4%	52.6%	7.8ポイント
	入場者数	12,540	4,319	8,211
第1練習室	利用可能日数	308	328	△20
	利用日数	159	144	15
	利用率	51.6%	43.9%	7.7ポイント
	入場者数	10,492	3,341	7,151
第2練習室	利用可能日数	311	330	△19
	利用日数	195	158	37
	利用率	62.7%	47.9%	14.8ポイント
	入場者数	9,612	3,563	6,049
第3練習室	利用可能日数	311	330	△19
	利用日数	247	203	44
	利用率	79.4%	61.5%	17.9ポイント
	入場者数	11,694	4,528	7,166
その他の入場者数	入場者数	2,764	773	1,991
入場者数合計		385,302	357,887	27,415

【点検・調査結果及び評価】

・平成30年度は、演劇ホール舞台吊物機構改修工事、舞台照明設備改修工事を実施したため年間約6ヵ月間の利用制限を行っている。そのため、前年度に比べ全体的な入館者数は増加しているものの、平年の8割程度に留まっている。また、利用率については分母となる利用可能日数が低かったこと、工事のための騒音等について利用者に理解を求めながら積極的な貸出を行ったことにより、前年度よりいずれも高くなっている。引き続き、安全で快適な施設管理に努め、利用者や周辺住民に理解を得ながら、利用率アップや入場者数の増に向け取り組んでいく必要がある。

【利用者調査結果】

(主催者)

調査 実施内容	調査年月日	平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日	
	調査方法	施設利用者を対象にアンケート用紙への記入方式で実施	
	調査対象数	57 団体	
評価項目(4段階評価)		満足度(平均値)	
		30 年度	29 年度
1	利用料金について<4:安い 3:やや安い 2:やや高い 1:高い>	2.65	2.65
2	利用手続きについて<4:円滑 3:概ね円滑 2:やや煩雑 1:煩雑>	3.74	3.68
3	フロア職員の接客態度や対応について <4:良い 3:概ね良い 2:あまり良くない 1:良くない>	3.98	3.95
4	ステージ職員の接客態度や対応について <4:良い 3:概ね良い 2:あまり良くない 1:良くない>	3.89	3.88
5	舞台・音響・照明について <4:良い 3:概ね良い 2:あまり良くない 1:良くない>	3.84	3.74
6	また利用したいと思うか <4:是非利用したい 3:利用してもいい 2:あまり利用したくない 1:もう利用したくない>	3.93	3.92
平均		3.67	3.64
利用者からの意見等		<ul style="list-style-type: none"> ・事務局、フロアスタッフの対応が丁寧。臨機応変に対応していただいた。 ・舞台、音響、照明の担当の方には、パフォーマンスをいかに最大限に見せられるかを考えて様々な工夫をしていただき、感謝。 ・マナーの悪い方への注意をしてほしい。 	
【調査結果及び評価】 例年同様の傾向であり、利用者の満足度は概ね高いと評価できる。			

(来館者)

調査 実施内容	調査年月日	平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日									
	調査方法	来館者を対象にアンケート用紙への記入方式で実施									
	調査対象数	14,068 人(熊本県芸術文化祭オープニングステージ等 10 事業)									
調査結果	調査分野	回答内容									
		大変満足		満足		やや不満足		不満足		分からない	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	内容	1,523	62.6	836	34.36	56	2.30	8	0.33	10	0.41
	チケット料金	754	45.84	737	44.80	68	4.13	11	0.67	75	4.56
	開演、終演時間	1,018	40.57	1,292	51.49	163	6.50	21	0.84	15	0.60
	スタッフ対応	1,046	41.46	1,336	52.95	72	2.85	13	0.52	56	2.22
	公演情報の入手	720	28.88	1,300	52.15	293	11.75	53	2.13	127	5.09
	鑑賞マナー	838	34.00	1,353	54.89	197	7.99	44	1.78	33	1.34
計	5,899	41.93	6,854	48.72	849	6.03	150	1.07	316	2.25	
利用者からの意見等		<ul style="list-style-type: none"> ・近くで演技をしている人を見て、新しい感覚を感じられ良かった。 ・日本の伝統芸能にふれ、あらためて考えることがあった。舞台の演出、クオリティも高く見ごたえがあった。 ・ホワイエ喫茶を利用してほしい。 ・公演情報をもっと幅広く周知してほしい。チケットの入手が難しかった。 ・演奏が始まってからの着座、前かがみ、咳払い、小さい子どもの態度、マナーを知らない人の拍手など来場者のマナーが気になった。マナーについての呼びかけがほしい。 									
【調査結果及び評価】 ほとんどの質問項目において 9 割以上の方が「大変満足」、「満足」と回答し高い評価を得ており、特に事業内容、スタッフ対応についての満足度が高い。昨年同様、「公演情報の入手」に関しては同割合が 8 割程度にとどまっており、より幅広い層に公演情報を伝えるための広報面の工夫が求められる。											

【管理運営経費の収支状況】

① 収入		
項目	内 訳	金額(円)
指定管理委託料	管理業務受託収入、事業受託収入	423,867,000
基本財産運用収入	基本財産利息収入	4,000
特定資産運用収入	特別企画事業積立資産利息収入等	10,178
事業収入	創造拠点事業収入、普及拠点事業収入、財団自主文化事業収入	33,995,947
制作受託収入	制作受託収入	22,847,871
広告料収入及び事業協賛金収入	広告料収入及び事業協賛金収入	150,000
補助金等収入	団体助成金収入、市町村負担金収入	27,162,018
寄附金収入	寄附金収入	4,932,150
雑収入	受取利息収入、雑収入	5,139,119
特定資産取崩収入	文化事業寄附積立資産取崩収入	6,855,258
前期繰越収支差額		39,832,215
合 計		564,795,756

② 支出		
項目	内 訳	金額(円)
事業費支出	創造拠点事業費支出、普及拠点事業費支出、普及・啓発広報事業費支出	153,405,945
管理費支出	人件費支出、物件費支出、リース債務返済支出	339,397,072
投資活動支出	退職給付引当資産取得支出、特別企画事業積立資産取得支出、文化事業寄附積立資産取得支出等	17,496,488
財務活動支出	リース債務返済支出	3,420,792
次期繰越収支差額		51,075,459
合 計		564,795,756

【点検・調査結果及び評価】

- ・指定管理委託料以外の収入確保に努め、文化事業等に充当するなど、適正な事業運営が行われている。
- ・当期収支差額から前期繰越収支差額を差し引いた額は黒字であり、堅実な事業運営がなされている。黒字分については、令和元年度以降の文化事業等に充当する予定である。

【運営方針に定めるミッションの達成度】

■評価項目⑫：協賛企業の確保等、多様な財源の確保

評価	理由
B	文化庁や地域創造等からの助成金のほか、民間機関からの制作受託費の受け入れ、民間企業との共同企画により、県民に対し、質の高い舞台芸術に触れる機会を数多く提供している。 今後は、助成金、寄附金等による収入のほか、多様な財源の確保等（積極的な企業協賛制度の導入等）経営の安定化を一層図っていただくことを期待する。

■評価項目⑬：公演実施者及び鑑賞者の拡大に向けた取組みの実施

評価	理由
A	<p>チケット販売に係る営業活動等の取組みや、コンシェルジュ制度の導入による利用者へのサービス向上、付帯事業の充実等により初心者呼び込むとともにリピーターを増やすための取組が積極的に行われている。</p> <p>また、過去利用者への積極的な利用案内、チケットインターネット販売システム導入準備等公演実施や鑑賞者の拡大に向けた取組を実施している。</p> <p>アンケートを実施し、課題や問題点を洗い出し、スタッフ間で情報共有してその後の円滑な運営に繋げている。</p>

4 安全管理

【運営方針に定めるミッションの達成度】

■評価項目⑭：災害時等における事業継続計画の策定、避難訓練等の実施

評価	理由
A	<p>「熊本県立劇場 危機管理マニュアル」を平成 28 年 8 月に見直し、地震発生時には震度ごと（弱震・中震・強震）に分けた対応を策定するとともに、財団スタッフのみならず、催事には主催者とも協力体制がとれるよう事前に打ち合わせを行っている。委託業者も含めた全員で、地震訓練、消防訓練、テロ対策訓練を実施。また、危機管理研修として地震発生時の対応研修、救急救命・AED 取扱い研修、情報セキュリティー対策研修等を実施し、危機管理対策を行っている。</p>

■評価項目⑮：災害等の非常時における避難者への対応

評価	理由
B	<p>「熊本県立劇場危機管理マニュアル」および危機管理計画書（公演毎に公演実施者に作成を依頼）をもとに危機管理体制表を作成し危機管理体制表をもとに劇場職員と講演主催者が協働して発災時に対応できる体制をとった。災害等の非常時において緊急一時避難場所としてなることが想定され、職員にも周知されている。</p> <p>今後は、県と連携しながら避難場所として施設を提供する場合のマニュアルの整備にも取り組んでいただくことを期待する。</p>

5 適正な事務執行等

【施設維持管理業務実績】

作業項目		実施頻度	備考	
業務名	業務内容			
清掃業務	日常清掃	事務室等 6 項目	使用のつど～1回/1～2日	仕様書に沿って適正に実施
	定期清掃	事務室等 4 項目	2回/月～4回/年	仕様書に沿って適正に実施
高所清掃業務	ガラス清掃	—	4回/年	仕様書に沿って適正に実施
水質管理	水質検査(市水)	残留塩素測定等 3 項目	1回/週～年	検査結果問題なし
	水質検査(井水)	定期検査	1回/年	検査結果問題なし
	受水槽等清掃		1回/年	仕様書に沿って適正に実施
環境測定	空気環境測定	40ヶ所	6回/年	測定結果問題なし
衛生管理	特定建築物維持管理実績報告		1回/月	仕様書に沿って適正に実施
	害虫駆除		2回/年	仕様書に沿って適正に実施
	汚水ピット清掃		2回/年	仕様書に沿って適正に実施
	ソーラー蓄熱槽清掃		2回/年	仕様書に沿って適正に実施
警備業務	常駐警備業務		全日	仕様書に沿って適正に実施
	駐車場整理用務		必要時	仕様書に沿って適正に実施
設備維持管理	総括管理、運転監視、日常巡視点検	設備 40 項目	1回/週～8回/年	点検結果問題なし
	高圧受電設備保安点検		1回/年	点検結果問題なし
	非常用発電機	法定点検等 2 項目	1～2回/年	点検結果問題なし
	電気設備点検	法定点検等 4 項目	1～2回/年	点検結果問題なし
	空調設備保守点検	ヒートポンプチラー等 15項目	1回/月～4回/年	点検結果問題なし
	中央監視装置・自動制御機器保守点検		中央監視装置総合1回/年 空調機器 1回/年 他	点検結果問題なし
	昇降設備保守	エレベーター4機	4回/年	点検結果問題なし
	消防用設備保守点検		総合点検 1回/年 外観点検 2回/年 他	防煙垂れ壁修繕済
	特定防火対象物報告		1回/年	仕様書に沿って適正に実施
	自動ドア保守点検		3回/年	点検結果問題なし
	煤煙測定業務		2回/年	仕様書に沿って適正に実施
	給湯ボイラー保守点検		1回/年	点検結果問題なし
	緊急ガス遮断装置保守点検		2～3回/年	点検結果問題なし
	その他の設備維持管理	有料駐車機保守点検		4回/年
施設予約管理システムソフト保守			問題発生時	仕様書に沿って適正に実施
舞台吊物保守点検			3回/年	経年劣化のため要更新
舞台迫り保守点検			3回/年	大部分の部品交換要検討
舞台照明システム保守点検			2回/年+問題発生時	点検結果問題なし
舞台音響システム保守点検			2回/年+問題発生時	点検結果問題なし
楽器類保守点検	ピアノ	4種	1回/年+(調律 3回/年)	大会議室ピアノ弦全張替
	チェンバロ		1回/年	点検結果問題なし
一般廃棄物	廃棄物処理業務		日曜、祝祭日を除く毎日	仕様書に沿って適正に実施
植栽等管理	樹木管理業務	駐在作業等 9 項目	随時、～3回/年	仕様書に沿って適正に実施
その他	トイレ洗浄機、消臭器		1回/2ヶ月	仕様書に沿って適正に実施
	玄関マット等		1回/2週	仕様書に沿って適正に実施
	貸植木		1回/月	仕様書に沿って適正に実施

【点検・調査結果及び評価】

- ・維持管理業務は適正に実施されており、安全・清潔・快適な劇場の施設・設備の提供が行われた。
- ・保全計画に基づく改修工事を実施しながらの開館であったが、的確に対応し、館内の安全確保を実現している。

【使用料の収納実績】

月	要収入額	収入済額	収入未済額	摘要
(H30) 4	13,619,940	7,258,170	6,361,770	
5	14,042,960	18,315,010	2,089,720	
6	13,817,020	14,762,020	1,144,720	
7	14,949,890	14,103,000	1,991,610	
8	14,867,770	16,660,640	198,740	
9	19,521,500	16,024,450	3,695,790	
10	17,307,230	18,743,920	2,259,100	
11	17,636,440	17,085,490	2,810,050	
12	21,102,150	19,698,700	4,213,500	
(H31) 1	13,978,290	15,980,900	2,210,890	
2	12,093,860	12,477,140	1,827,610	
3	18,388,340	19,214,820	1,001,130	うち、使用者に還付 1 件 41,040 円
(4)		1,001,130	0	
年度計	191,325,390	191,325,390		うち、使用者に還付 1 件 41,040 円

【点検・調査結果及び評価】
年間を通して、使用許可及び収納事務は適正に行われた。

【意見・苦情等の対応】

利用者からの意見・苦情等	改善状況
職員等の接遇に関する事	例会時等に組織内で情報共有し、繰り返し注意喚起を実施している。 利用者、鑑賞者によりきめ細やかに対応できるようサービスの向上に努めている。
駐車場に関する事（満車時の対応、入出庫時の混雑、等）	満車が予想される日をあらかじめ、広報紙「ほわいえ」、ホームページ等で周知するとともに、駐車場の空き状況をホームページでリアルタイムに確認できるようにしている。 また、駐車場満車時や、入出庫時の混雑解消のため、職員や警備員を配置した誘導整理を行い、混雑回避に努めている。

【調査結果及び評価】

利用者からの苦情に対してすぐに事実確認、分析、組織内での情報共有を行うとともに、相手方への即時対応、再発防止等に向けた取組みが検討されるなど適正な対応が取られている。
また、県所管課に対しても、苦情や緊急時の対応について早急に報告し、必要に応じ対応方針等について確認するなど、適正な施設管理運営に努めている。
その他、校区自治会の会合に参加し、要望把握に努めるとともに、公演情報を提供するなど、近隣住民・団体との協調に努め、良好な関係の維持・発展に努めている。

6 適切な事業評価の実施と翌年度計画への確実な反映

【昨年度の評価で改善を指摘された事項に対する対応】

指摘事項	改善内容・結果
助成金以外の多様な財源の獲得（会員制度の導入等）にも戦略的に取り組み、より一層、経営の安定化を図ること。	かねてからの懸案事項であった会員制の導入について、先行予約会員制度を開始することとした。
幅広い層に公演情報を伝えるための広報面の取組みが必要	ホームページ、フェイスブックにより、即時性のある情報提供を行った。IT弱者に対しても紙面による情報提供を行うなど、媒体を駆使して周知に取り組んでいるが、依然として、「公演情報、チケットの入手困難」などの意見があがっている。また、チケットインターネット販売システム導入に取り組んでいる。
専門的人材の確保・育成	スタッフに積極的に研修を受講させ、劇場スタッフのスキルアップに取り組んでいる。
災害時・非常時における避難者への対応（避難場所として施設を提供する場合のマニュアルの整備）。	県立劇場危機管理マニュアル及び利用者（主催者）から徴収する危機管理計画書をもとに危機管理体制表を作成。互いに協働して避難誘導する体制を整えている。 今後避難場所となった場合の件や関係機関との役割分担の明確化が必要。

【運営方針に定めるミッションの達成度】

■評価項目⑯：自己評価の実施

評価	理由
A	文化事業を実施するにあたり、鑑賞者アンケートにより公演・各種サービスに関する満足度や、感想・意見を客観的に評価するとともに、自ら定量・定性評価を行い、今後の事業の企画・運営に反映させている。 また、県内の芸術文化関係者をメンバーとする文化事業評価委員会を設置し、文化事業の内容について意見聴取している。

■評価項目⑰：県の事業評価結果の事業計画への反映

評価	理由
A	従来からの懸案事項であった「会員制度」の構築に向けて検討を重ね、令和元年度から先行予約会員制度を開始することとした点については高く評価できる。 県の事業評価結果の事業計画への反映は概ね適正に行われている。 今後、県の文化振興拠点として、新たに明確化された役割（実演芸術に携わる人材の育成確保や公立文化ホールや文化団体の活動支援）をはじめ、文化芸術の創造拠点、普及拠点として県立劇場に求められる役割を果たしていただくことを期待する。